

「カヌー教室」で学んだこと

中 三

私が所属しているカヌークラブでは、毎年、障害のある子供たちを招いて、「カヌー教室」を開催しています。それは、車いすに乗っていたり、生命を維持するための機械を常に必要としていたり、目が不自由だったりといったさまざまな障害のある子供たちに、「自然の中でカヌーを楽しんでもらいたい。」との思いから、約二十五年間続いている活動です。昨年からは、私も人を乗せられるようになりました。私が漕ぐカヌーに乗って、楽しそうにしている子供たちの姿を見ることがや、子供たちに話しかけてもらえることは、私も「楽しい」です。

参加してくれる子供たちの中には、初めてのカヌーに怖がつてなかなか乗れない子供もいれば、我先にと目をキラキラと輝かせながら、カヌーに乗り込む子供もいて、「楽しみにしてくれているんだなあ。」と、とても嬉しく思います。また、参加してくれる子供たちだけでなく、保護者の

方々が自分の子供の楽しんでいる姿を見て、笑ったり、動画を撮ったりしている姿を見るのも嬉しいです。

「来年もよろしくお願いします。」
と言っていただけだと、この活動を続ける意欲になり、このカヌークラブのメンバーとして、私自身も楽しく貴重な時間を過ごさせてもらえる幸せを実感します。

そんな私も、初めてボランティア活動に参加したときは、「ボランティア活動をしてあげている。」という、おごりのような気持ちがありました。なぜかは分からないけれど、障害のある人たちを勝手な思い込みで、かわいそうだという目で見て、「自分でできることだけをやればよいのではないか。」と思っていました。でも、何回も活動に参加していくうちに、「喜びや楽しさは誰でもどこでも味わうことができ、一緒に楽しむことができるのではないか。」と考えるようになりました。実際に、カヌーに子供たちを乗せて一緒に漕いでいるとき、私が知らなかったたくさんの豆知識を披露してくれたり、川で釣れた魚の名前や特徴を分かりやすく教えてくれたりしま

す。また、友達との楽しかった思い出を話してくれたり、初めは怖がっていた子供が自然の中での心地良さを感じているのか、静かにじっと座っていたりもしました。そんなとき、知識だけでなく人との関わり方なども勉強になって、振り返ると私自身が成長していると感じました。これらのことを感じられたきっかけは、私がカヌークラブに入っていたから、ボランティア活動に参加させてもらえたから、そして何よりも、「子供たちがいてくれたから。」だと思っています。この出会いと活動がなければ、それまでもっていた障害のある人たちに対する偏見や、人を尊重することの大切さを学ぶことはできなかったと思います。障害のある人もない人も、共に「楽しく」過ごす。その意識が当たり前でも大切なことだということとを、あの子供たちから身をもって教わりました。

二〇一六年七月二十六日未明に、神奈川県相模原市にある知的障害者福祉施設「津久井やまゆり園」にて、知的障害者を狙った悲惨な事件がありました。犯人は法廷で「意思疎通が十分にできない障害者には人権がなく、生きる意味がない。」などの人間に当然与えられる権利である「人権」

を否定する発言をしていました。初めてそれらの言葉を聞いたとき、とても驚きました。確かに人にはそれぞれの価値観や考え方があられるけれど、「人を殺してはいけない」という意識は、人として誰もが共通してもっているものだと思っていたからです。亡くなってしまった人にも家族がいます。記事には「家族の方と入居者の方は、毎月面会することができたため、お互いにその日を楽しみに毎日を過ごしていた。」と書かれています。この事件で、入居者の命だけでなくその家族の生きがいも失われてしまったのです。まだたくさん残っていたはずの命の炎をいとも簡単に消去した犯人に強い憤りを感じました。それと同時に、この犯人が「意思疎通が十分にできない人には人権はない。」という歪んだ考えをもった背景に、もしも入居者や家族の高齢化や将来を心配していたとするなら、地域・社会・日本全体で不安を支え、生活を守っていかなければならないと思います。

今の世の中は不平等だと思います。それはとても大きい話に聞こえるかもしれないけれど、周りを見渡してみると身近に不平等はあります。それ

は今回取り上げた障害の有無だけでなく、性別による問題、国籍による雇用問題など数えるときりがありません。しかし、それらが少しずつ改善されるよう働きかけられていることも事実です。改善されてきているということは、一人一人の意識が変化してきているということだと思います。今だからこそ、一人一人が「人権」について考え、強い人だけが主張するのではなく、自分から訴えることが難しい人たちを守り、支え合える世の中を創りあげていく必要があると思います。

私は、クラブでの活動から、「人々が支え合いながら自分らしく生きることの大切さと素晴らしさ」を学びました。また、「一つのことを一緒に楽しむことができることの貴重さ」も同時に学びました。これからは、たくさんの人と関わりながら、たくさんのことを学び、人それぞれの生き方を尊重して、自分らしく生きていこうと思います。そして、私だけでなく、今生きている人、これから生まれてくる人全員が自分らしさを捨てずにお互いに認め合って、支え合って生きていけるような社会となるよう少しずつでも貢献できるようになりたいです。